

株主メモ

| | |
|-------------------|---|
| 事業年度 | 毎年3月1日から翌年2月末日まで |
| 株主総会 | 1. 定時株主総会は、毎年5月に開催いたします。 2. 臨時株主総会は、必要あるときに随時開催いたします。 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 (同連絡先) | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料) |
| 同取次所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 本店および全国各支店 |
| 公告方法 | 電子公告の方法により行います。ただし、事故、その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.point.co.jp/ |

お知らせ

○株式関係のお手続き用紙のご請求について

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

TEL 0120-244-479 (本店証券代行部)

TEL 0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

株主優待制度のご案内

当社株式をご所有の株主の皆様へ、全国の当社店舗でご利用可能な商品引換券を贈呈させていただきます。(権利確定日:2月末)

| 所有株式数 | 商品券贈呈額 |
|------------------|---------|
| 10株以上100株未満 | 2,000円 |
| 100株以上1,000株未満 | 5,000円 |
| 1,000株以上5,000株未満 | 10,000円 |
| 5,000株以上 | 20,000円 |

株式会社 ポイント

〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階

Tel.03-3243-6011 Fax.03-3243-6022

<http://www.point.co.jp/>

POINT REPORT 2007

第57期 年次報告書

2006.3.1～2007.2.28

point

株主の皆様へ

代表取締役社長 石井 稔晃

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第57期における事業のご報告をするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。



新中期経営計画（TOP9）の初年度として、 順調なスタートを切ることができました。

当社グループは、当期より「ビジネスモデルの展開と企業力強化」をテーマとする新中期経営計画「TOP9 (Take Off Point 2007-2009)」をスタートさせました。このTOP9の骨子は、先行する2ブランドの運営ノウハウをもとに既存ブランドを育成するとともに、新規ブランドを

開発することで業容を拡大し、最終年度には国内売上高760億円を達成するというものです。この基本方針に則り事業を運営した結果、当期の連結業績は、売上高616億50百万円（前期比125.6%）、経常利益123億24百万円（前期比123.8%）と、8期連続の増収増益となりました。このようなご報告ができるのも、ひとえに株主様やお客様、お取引先の皆様のご協力、ご支援の賜物と心より感謝を申し上げます。

複数ブランドの開発・育成が 成長の源泉となりました。

ブランド毎の動きとしては、二大ブランドであるローリーズファームおよびグローバルワークが引き続き安定的に伸びるとともに、第3の柱であるジーナシスを始め、レイジブルー、ハレ、ヘザーなどの既存ブランドの成長が加速し、さらにローリーズファームから派生した新ブランドも好調な滑り出しを見せました。これも、店頭基点の商品開発を地道に実践してきたことが、他社との差別化に繋がり、結果としてお客様の広範なご支持を得ることができたものと考えております。

積極的な出店で、 販売チャネルの充実を図りました。

また、グローバルワークを軸に積極的な出店を実施した結果、国内店舗は純増74店と、店舗網の拡大が進みました。既存店については、店舗鮮度の維持を図るため、29店舗の改装を実施しました。一方、海外で

はローリーズファームに続いてレイジブルーが台湾に初めて出店しました。ここで得たノウハウをもとに、来期以降アジア市場への展開を検討してまいります。また、リアル店舗の補完的な機能として、インターネット通販サイトに3ブランドを出店いたしました。下期のスタートながら、予想以上の反響をいただき、既存のお客様へのサービス向上やプロモーション手法の観点からも、新たな販売チャネルとしての可能性を見いだしました。

経営の安定化と収益の維持・向上のため さまざまな取り組みを進めます。

TOP9の2年目となる第58期は、ジーナシスを筆頭に各ブランドの成長を継続させ、一層の経営の安定化と収益の維持・向上に努めます。また、eコマース事業や海外マーケットへの挑戦など、販売チャネルの拡大にも取り組みます。さらに、組織の成長や店舗数の増大に対応し、人材力や組織力を強化します。このほか、日本版SOX法に対応した内部統制プロセスの構築などコーポレートガバナンスの整備に引き続き取り組んでまいります。

飽くなきチャレンジを続け、 企業価値を高めてまいります。

当期は、中間20円、期末40円、年間で60円の配当とし、前期より20円の増配といたしました。また、600千株の自己株式の取得を実施するなど、株主還元を努めております。今後も皆様に末長く株式をご保有いただけるよう、これまでの成長に満足することなく、チャレンジを続け企業価値を高めてまいりますので、引き続きご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

◎ 2007年2月期（第57期）決算のポイント

売上高 61,650百万円……………前期比25.6%UP

当期は、前期58店舗の出店（内台湾2店舗）に対し、88店舗の出店（内台湾5店舗）と出店の規模を拡大させたこと、増床・移転を含む改装を29店舗において実施したこと、さらに広告宣伝を強化しブランド力の維持・向上に努めたことが奏功し、売上高は引き続き好調に推移しました。特に、主力ブランドに続く既存ブランドが急成長を果たし、着実に規模を拡大しています。

経常利益 12,324百万円……………前期比23.8%UP

当期は、前述の通り売上高が前期比25.6%増と好調に推移したため、経常利益も前期比23.8%増の12,324百万円と増益を達成することができました。経常利益率は20.0%と、前期と比較して0.3ポイント低下しましたが、これは、アウトレット商品の処理方法変更により、売上総利益率が0.2ポイント低下したこと、今後の成長に向けた積極的な取り組みとして、広告宣伝強化や人材力強化等を計画的に実施したことによるものです。

商品回転率 13.1回転……………前期比0.8回転UP

当社の特徴であるタイムリーな商品投入を推進するとともに、当期より、規模の拡大に対応可能な新福岡物流センターが本格的に稼働し、機会ロスを生まない物流機能の充実が図られました。さらに、商品鮮度を維持・向上するために、アウトレット商品の前倒し処理を実施したこと等により、商品回転率は年13.1回転となり、前期比0.8回転向上しました。

TOP9 進捗状況のご報告

TOP9の基本戦略

複数ブランドの開発育成により、業容の拡大と経営の安定化を図ります。

ブランド定着により収益力の維持・向上を図ります。

成長継続のための人材力・組織力の強化に努めます。

コーポレートガバナンスの整備と確立を目指します。

2007年2月期(第57期)の成果

- ジーンシスの成長加速に加え、それに続くブランド(レイジブルー、ハレ、ヘザー)も急成長しました。
- 期初に掲げた2ブランドに加えてレプシムローリーズファームを新たに展開しました。そのうちアパートバイローリーズ、レプシムローリーズファームは想定以上の好スタートを切りました。

- グローバルワークの22店舗を軸に88店舗の出店を実施し、ローリーズファーム12店舗を中心に29店舗の改装を行うとともに、広告宣伝強化によるブランド力の維持・向上を図った結果、売上高は前期比125.6%の616億円となりました。
- 商品鮮度を維持・向上するために、アウトレット商品の前倒し処理をしました。結果として、商品回転率は前期の12.3回転から、13.1回転に向上しました。

- 店長・エリアマネジャー・バイヤーへの研修を実施するとともに、社内横断的なプロジェクトを展開しOJTの機会を提供することにより、現場の問題発見・解決力を向上させました。
- カスタマーサービス専門部署を設置し、顧客満足度・商品品質の向上を推進しました。

- 内部統制の体制構築のため、社内プロジェクトチームを発足させ、準備に着手しました。
- コンプライアンス精神の浸透を図るため、企業倫理基準20ヶ条を制定し従業員への周知徹底を図りました。



2008年2月期(第58期)の取り組み方針

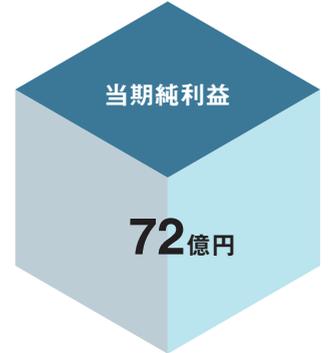
- ジーンシスを筆頭に各ブランドの成長を継続します。
・前期立ち上げた新ブランドの安定・拡大を図るとともに、新ブランド・新カテゴリーへのチャレンジを継続します。
- e-コマース事業の本格展開を図ります。
・インターネット販売を現在の3ブランドから拡大します。
- 台湾に続く海外マーケットへの展開を検討します。

- 店舗イメージの向上と積極的な出店を継続して実施します。
・ローリーズファームを中心に内装イメージを見直し、店舗改装の積極的な取り組みを継続します。
・グローバルワークとレプシムローリーズファームを中心に出店を加速します。
- 広告宣伝を戦略的に実施します。
・カタログ、雑誌、WEB活用を強化します。
- アウトレット商品の販売力向上を図ります。
・単独ブランドでのアウトレット店舗の出店を検討します。

- 人事制度を見直し、「チャレンジ」する行動を重視します。
・行動評価を一層重視する体系とします。
- 社員教育体系の充実を図ります。
・幹部養成研修、管理職候補者研修、考課者訓練等を実施します。
- 人材確保のための施策を展開します。
・積極的な採用を継続し、初任給の見直しや社員登用制度の一層の活性化を図ります。
・仕事と家庭生活の両立支援制度や再雇用制度を制定します。
- 営業本部再編成によりブランド間のシナジー発現を目指します。

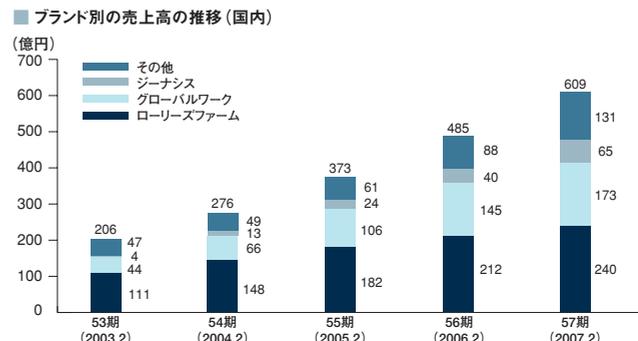
- 日本版SOX法に対応した内部統制プロセスの整備を継続して行います。
・リスクマネジメント体制の整備を行います。
・業務の効率性・有効性向上へのルール化を図ります。
- 社外取締役を招聘します。

2008年2月期(第58期)計画



複数ブランドの開発・育成に努めました。

当期は、ローリーズファームが240億円、グローバルワークが170億円を超える売上規模となり、引き続き安定した成長を見せました。この二本柱に続く位置づけとして展開してきたジーナシスが、売上高前期比160.7%と成長が加速し、第3の柱と呼べるまでに成長しました。これら主要3ブランドに続いてレイジブルー、ヘザー、ハレも大きな成長を遂げました。また、30代後半から50代の男女をターゲットとしたアンダーカレント、郊外ロケーションに適したレプシムローリーズファームを立ち上げるとともに、前期からスタートしたアパートバイローリーズも好調な滑り出しとなり、複数ブランドの開発育成が順調に進展しました。



主要3ブランドは堅調に推移しました。

ローリーズファーム

時流のファッションを適切なスタイルとプライスで提案。当期もこのブランドイメージがお客様に支持され、引き続き順調に推移しました。

LOWRYS
FARM



グローバルワーク

ローリーズファームに並ぶ主力ブランドであるグローバルワークは、出店の軸として期初計画を上回る22店舗の出店を行い、郊外立地での市場ポジションを確立しました。

GLOBAL WORK



ジーナシス

主要2ブランドに続く位置づけのジーナシスは、カジュアル&シックをテーマに展開。そのスタイルがお客様にご支持をいただきました。結果、売上高前期比が160.7%と大幅に伸長し、第3の柱と呼べるまでに成長しました。

JEANASIS



主要ブランドに続く既存ブランドの成長が加速しました。

レイジブルー

店舗の内装イメージを一新し、ファッションビルの中での他店舗との差別化に成功しました。また、ファッション誌とのタイアップが奏功し、知名度の向上が図られ、売上高前期比131.3%となりました。

RAGEBLUE



ヘザー

コンセプトをスポーツテイストから時々のトレンドをミックスしたストリートスタイルへ切り替えたことでブランドイメージが確立し、売上高前期比141.3%と急成長を遂げました。

Heather



ハレ

ストリートスタイルをベースにカジュアル&シャープな個性的ブランドコンセプトで展開しています。当期出店したインターネット通販のサイトでも支持を獲得し、売上高前期比163.4%と力強い成長力を示しました。

HARE



新ブランドが好調に立ち上がりました。

アパートバイローリーズ

大人のためのローリーズファームとして、前期より展開を開始しました。ブランドイメージが支持され、好調な滑り出しとなりました。店舗も期初計画を上回る8店舗を新規出店しました。

apart by lowrys



アンダーカレント

当期より、30代後半から50代の男女をターゲットとした大人の上質普段着を提案・展開しています。都心立地では好調であるものの、郊外立地での浸透を課題として実験・検証を継続していきます。

UNDERCURRENT



レプシムローリーズファーム

日常生活に溶け込む気取らないカジュアルスタイルを提案し、郊外ロケーションに適した新ブランドとして当期より展開したところ、想定以上の好スタートを切ることができました。

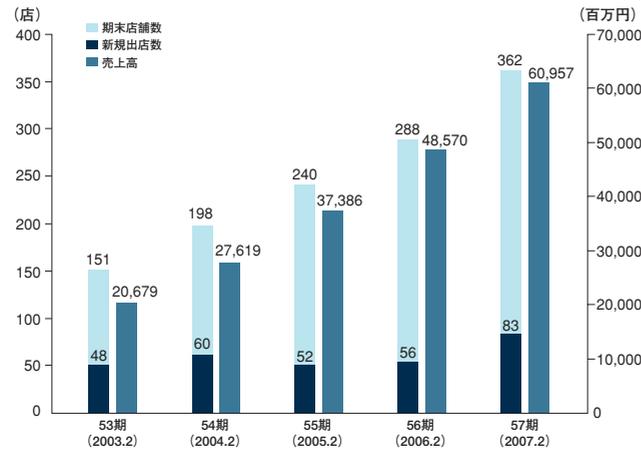
LEPSIM
LOWRYS FARM



グローバルワークを出店の軸として、積極的な出店を実施しました。

当期は、グローバルワークの22店舗を軸に国内83店舗の出店を行い、期末国内店舗数は前期末比74店舗の純増となり、出店の規模が拡大しました。増床・改装の効果もあり、国内売上高は前期比125.5%の609億円となり、8期連続の増収を達成することができました。2008年2月期は、引き続きグローバルワークを中心に出店を加速させるとともに、レプシムローリーズファームを単独ブランドとして積極展開するなど新ブランドの安定・拡大を図り、国内90店舗の新規出店を予定しております。

国内店舗数の推移と売上高



グローバルワーク ラゾーナ川崎店

グローバルワークラゾーナ川崎店が、川崎駅と直結した大型商業施設「ラゾーナ川崎プラザ」にオープンしました。ほのかな懐かしさを感じられる空気を表現した店舗となっており、お勤めやお出かけの帰り道でも気軽に立ち寄り、肩肘張らずに楽しめるファッションを提案しております。



GLOBAL WORK

レプシムローリーズファーム ダイヤモンドシティ・エアリ店

当期より展開したレプシムローリーズファームの6番目の店舗として、東北最大級のショッピングセンター(SC)にダイヤモンドシティ・エアリ店を、オープンしました。「ユニバーサルデザイン」を導入した快適なショッピング環境の中、幅広いお客様にレプシムローリーズファームのシンプルでナチュラルな空間とサービスを提供しております。

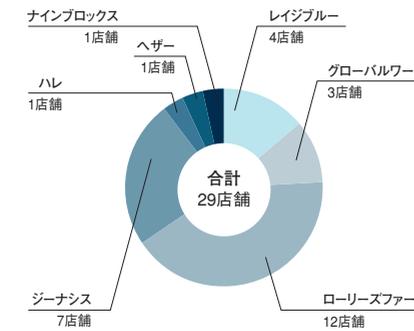


LEPSIM
LOWRYS FARM

引き続き積極的な改装により、既存店の活性化を図りました。

当社では、ブランド価値の維持・向上を図り、お客様に店頭へ何度も足を運んでいただくために、出店と同様に既存店の改装による店舗鮮度の維持・向上を重視しています。当期は、既存店の活性化のために増床・移転を含む改装を、ローリーズファームの12店舗を中心に29店舗において実施しました。その効果もあり、当期における既存店売上高は、前期比105.8%となりました。2008年2月期においても、店舗改装の積極的な取り組みを継続し、50店舗の改装を計画しています。特に、ローリーズファームを中心に内装イメージを見直し、引き続き既存店の活性化を図ってまいります。

ブランド別改装店舗数



ジーナシス渋谷マルコ店



レイジブルー大宮アルシェ店

CLOSE UP

ZOZOTOWERへ出店しました。

当社は、株式会社スタートトゥデイが2006年9月にオープンしたオンラインショッピングタワー「ZOZOTOWER(ゾゾタワー)」に、ローリーズファーム、ジーナシス、ハレの3ブランドを出店しました。お蔭様をもちまして、出店をした店舗はいずれも当初の予想を上回るご愛顧をいただいております。



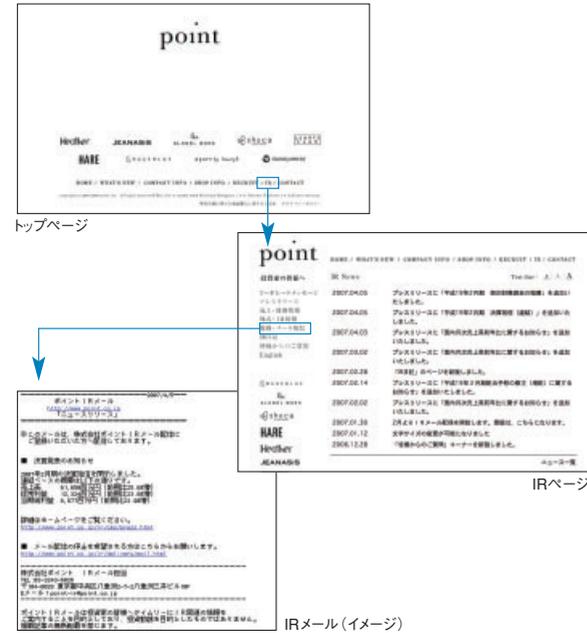
「ZOZOTOWER」とは

「ZOZOTOWER」とは、株式会社スタートトゥデイが運営するオンラインショッピングサイトで、想像(SOZO)と創造(SOZO)が行き交う街としてインターネット上に誕生した「ZOZOTOWN」の中にある、カジュアルブランドやハイブランド、子供服などジャンルの枠を超えた高感度なショップが揃う塔をイメージしています。

<http://zozo.jp/tower/>

IRサイトを充実させました。

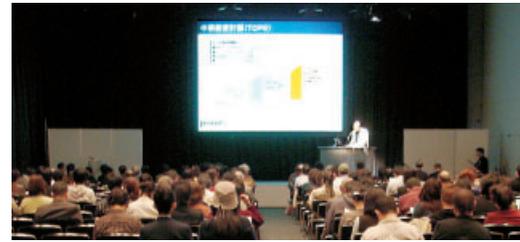
2006年12月1日、当社コーポレートサイトのリニューアルに併せ、IRサイトをリニューアルしました。株主の皆様、投資家の皆様へのきめ細かな情報提供を目指し、従来からのニュースリリースや売上速報などの迅速な情報開示に加え、動画による説明会様様の配信やIRメールの配信、IR日記(IR担当者からのお知らせブログ)の掲載など、多彩なコンテンツを揃えました。特に、IRメールにご登録いただいた方には、随時、当社の決算情報、月次売上概況、プレスリリース等のIR・企業情報を配信しています。皆様とのコミュニケーションを深める一助としたいと考えておりますので、是非ご活用ください。



<http://www.point.co.jp/>

定期的に会社説明会を実施しました。

2006年11月18日、ラフォーレミュージアム六本木にて、株主の皆様をお招きして経営報告会を開催いたしました。事業内容・財務に関する経営報告を行った後、株主の皆様からのご質問をいただく時間を設け、担当役員からご説明をさせていただきました。また、2007年2月9日に個人投資家の皆様を対象として、当社の認知度向上を図り、個人株主様を拡大するため、会社説明会を実施しました。今後も定期的に株主の皆様や個人投資家の皆様と交流を図る場を設けてまいります。



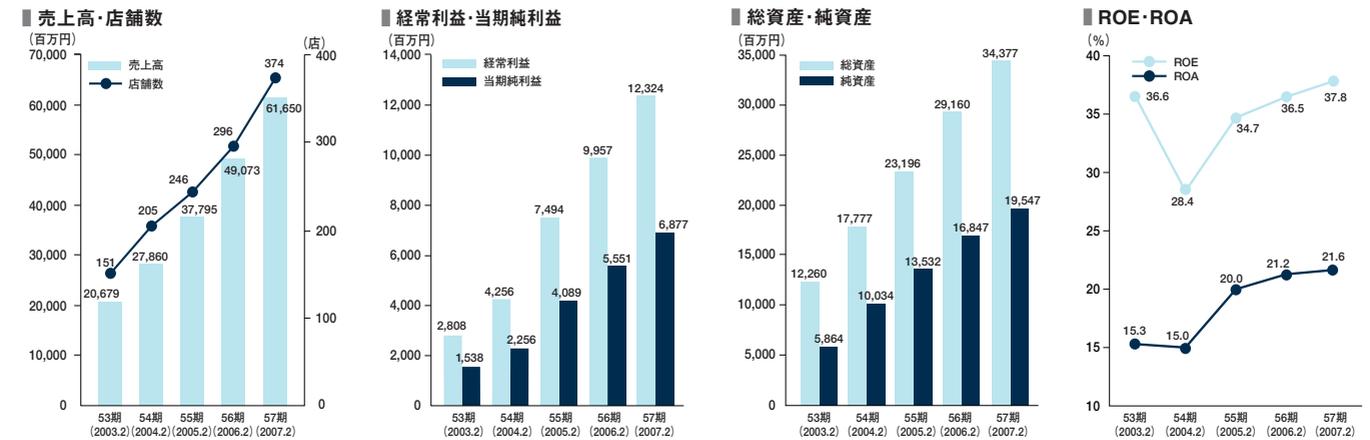
株主還元に努めました。

当社は、魅力あるブランド開発等への投資を積極的に行い、株主価値の向上を図る一方、安定した配当を維持しながら、業績に応じた増配の実施を基本としています。当期の期末配当金につきましては、1株当たり30円を予定していましたが、業績が順調に推移し計画を達成できましたことを踏まえ、1株当たり10円増配の40円といたしました。中間配当金の1株当たり10円の増配と合わせ、年間配当金は1株当たり20円増配の60円となります。また、600千株の自己株式の取得を実施するなど株主還元にも努めました。

財務ハイライト(連結) | Financial Highlights

| | | 53期 (2003年2月) | 54期 (2004年2月) | 55期 (2005年2月) | 56期 (2006年2月) | 57期 (2007年2月) |
|--------------------|-------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売上高 | (百万円) | 20,679 | 27,860 | 37,795 | 49,073 | 61,650 |
| 経常利益 | (百万円) | 2,808 | 4,256 | 7,494 | 9,957 | 12,324 |
| 当期純利益 | (百万円) | 1,538 | 2,256 | 4,089 | 5,551 | 6,877 |
| 総資産 | (百万円) | 12,260 | 17,777 | 23,196 | 29,160 | 34,377 |
| 純資産 | (百万円) | 5,864 | 10,034 | 13,532 | 16,847 | 19,547 |
| 店舗数 | (店) | 151 | 205 | 246 | 296 | 374 |
| 1株当たり当期純利益(EPS)(円) | | 194.62 | 163.55 | 156.71 | 216.22 | 270.25 |
| 1株当たり純資産額(BPS)(円) | | 687.54 | 703.23 | 523.50 | 659.17 | 775.00 |
| 総資産当期純利益率(ROA)(%) | | 15.3 | 15.0 | 20.0 | 21.2 | 21.6 |
| 自己資本利益率(ROE)(%) | | 36.6 | 28.4 | 34.7 | 36.5 | 37.8 |

※2003年4月に1:1.5、2004年4月に1:1.2、2004年8月に1:1.5の株式分割を実施しております。



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表 (要旨)

| 科目 | 当期 (2007年2月28日現在) | 前期 (2006年2月28日現在) |
|--------------|----------------------|----------------------|
| ●資産の部 | | |
| 流動資産 | 22,543 | 19,185 |
| 現金及び預金 | 17,013 | 14,876 |
| 売掛金 | 2,536 | 1,829 |
| たな卸資産 | 2,016 | 1,719 |
| 繰延税金資産 | 816 | 586 |
| その他 | 205 | 203 |
| 貸倒引当金 | △46 | △29 |
| 固定資産 | 11,834 | 9,975 |
| 有形固定資産 | 3,058 | 2,586 |
| 無形固定資産 | 156 | 123 |
| 投資その他の資産 | 8,619 | 7,264 |
| 投資有価証券 | 103 | 120 |
| 保証金敷金 | 6,688 | 5,571 |
| 繰延税金資産 | 232 | 134 |
| その他 | 1,860 | 1,616 |
| 貸倒引当金 | △265 | △178 |
| 資産合計 | 34,377 | 29,160 |

■ 連結貸借対照表 (要旨) (単位:百万円)

| 科目 | 当期 (2007年2月28日現在) | 前期 (2006年2月28日現在) |
|------------------|----------------------|----------------------|
| ●負債の部 | | |
| 流動負債 | 14,485 | 11,571 |
| 買掛金 | 7,381 | 6,468 |
| 一年内償還予定社債 | 500 | — |
| 短期借入金 | 55 | 98 |
| 未払金 | 2,496 | 1,876 |
| 未払法人税等 | 3,361 | 2,559 |
| 賞与引当金 | 610 | 490 |
| その他 | 80 | 79 |
| 固定負債 | 345 | 740 |
| 社債 | — | 500 |
| 長期借入金 | 28 | 83 |
| 賞与引当金 | 55 | — |
| 役員賞与引当金 | 67 | — |
| 役員退職慰労引当金 | 151 | 151 |
| その他 | 44 | 6 |
| 負債合計 | 14,830 | 12,312 |
| ●資本の部 | | |
| 資本金 | — | 2,660 |
| 資本剰余金 | — | 2,517 |
| 利益剰余金 | — | 13,729 |
| その他有価証券評価差額金 | — | 39 |
| 為替換算調整勘定 | — | 2 |
| 自己株式 | — | △2,102 |
| 資本合計 | — | 16,847 |
| 負債及び資本合計 | — | 29,160 |
| ●純資産の部 | | |
| 株主資本 | 19,487 | — |
| 資本金 | 2,660 | — |
| 資本剰余金 | 2,517 | — |
| 利益剰余金 | 18,746 | — |
| 自己株式 | △4,437 | — |
| 評価・換算差額等 | 34 | — |
| 新株予約権 | 25 | — |
| 純資産合計 | 19,547 | — |
| 負債及び純資産合計 | 34,377 | — |

■ 「連結貸借対照表」について

「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性をもつものを「資産の部」、負債性をもつものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。

Financial Statements

■ 連結損益計算書 (要旨)

| 科目 | 当期 (2006年3月1日～ 2007年2月28日) | 前期 (2005年3月1日～ 2006年2月28日) |
|--------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 売上高 | 61,650 | 49,073 |
| 売上原価 | 24,483 | 19,383 |
| 売上総利益 | 37,167 | 29,690 |
| 販売費及び一般管理費 | 24,880 | 19,716 |
| 営業利益 | 12,287 | 9,973 |
| 営業外収益 | 87 | 27 |
| 営業外費用 | 50 | 42 |
| 経常利益 | 12,324 | 9,957 |
| 特別利益 | — | 57 |
| 特別損失 | 439 | 446 |
| 税金等調整前当期純利益 | 11,884 | 9,568 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,324 | 4,102 |
| 法人税等調整額 | △316 | △85 |
| 当期純利益 | 6,877 | 5,551 |

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

| 科目 | 当期 (2006年3月1日～ 2007年2月28日) | 前期 (2005年3月1日～ 2006年2月28日) |
|------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 8,584 | 7,744 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,140 | △3,073 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △4,307 | △2,338 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 0 | △0 |
| 現金及び現金同等物の増加額 | 2,136 | 2,333 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 14,872 | 12,539 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 17,009 | 14,872 |

■ 連結株主資本等変動計算書 (要旨) 当期(2006年3月1日～2007年2月28日)

| | 株主資本 | | | | | 評価・換算 差額等 | 新株 予約権 | 純資産 合計 |
|-----------------------|-------|-------|--------|--------|--------|--------------|-----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | | | |
| 前期末残高 | 2,660 | 2,517 | 13,729 | △2,102 | 16,805 | 41 | — | 16,847 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △1,279 | | △1,279 | — | | △1,279 |
| 当期純利益 | | | 6,877 | | 6,877 | — | | 6,877 |
| 自己株式の取得 | | | | △3,565 | △3,565 | — | | △3,565 |
| 自己株式の処分 | | | △580 | 1,230 | 650 | — | | 650 |
| 株式資本以外の項目の当期中の変動額(純額) | | | | | — | △7 | 25 | 17 |
| 当期変動額合計 | — | — | 5,017 | △2,335 | 2,681 | △7 | 25 | 2,699 |
| 当期末残高 | 2,660 | 2,517 | 18,746 | △4,437 | 19,487 | 34 | 25 | 19,547 |

■ 「連結株主資本等変動計算書」について

「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様に帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、ご報告するために作成する計算書類です。

会社概要 | Company Outline

(2007年2月28日現在)

■ 会社概要

| | |
|--------|------------------------------------|
| 会社名 | 株式会社ポイント |
| 本部 | 東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階 |
| 代表電話 | 03-3243-6011 |
| 設立 | 1953年10月 |
| 資本金 | 2,660百万円 |
| 代表者 | 代表取締役社長 石井 稔晃 |
| 事業内容 | カジュアルウェア専門店チェーン |
| 事業所 | 水戸本店 東京本部 国内店舗数 362店舗 |
| 主要取引銀行 | 三菱東京UFJ銀行 常陽銀行 |
| 社員数 | 正社員1,014名(男367/女647) |
| 平均年齢 | 27.1歳 |

■ 連結子会社

株式会社ボジック

| | |
|----------|-------------------|
| 資本金 | 10百万円 |
| 当社の議決権比率 | 100% |
| 主な事業内容 | 当社取扱商品の物流業務 |
| 事業所 | 水戸物流センター、福岡物流センター |

波茵特股份有限公司

| | |
|----------|-----------------|
| 資本金 | 10百万台湾ドル |
| 当社の議決権比率 | 100% |
| 主な事業内容 | 台湾における衣料販売業務 |
| 事業所 | 台北本部 台湾店舗数 12店舗 |

■ エリア別各ブランド国内店舗数

(単位:店)

| | 北海道・東北 | 関東 | 中部 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 | 合計 |
|---------------|--------|-----|----|----|-------|-------|-----|
| ローリーズファーム | 10 | 41 | 16 | 16 | 9 | 12 | 104 |
| アパートバイローリーズ | 0 | 7 | 2 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| レブシムローリーズファーム | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 6 |
| グローバルワーク | 14 | 39 | 15 | 16 | 4 | 16 | 104 |
| アンダーカレント | 3 | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 9 |
| ジーナシス | 4 | 23 | 4 | 9 | 3 | 2 | 45 |
| レイジブルー | 3 | 10 | 4 | 6 | 1 | 5 | 29 |
| ハレ | 2 | 8 | 4 | 4 | 0 | 2 | 20 |
| ヘザー | 2 | 9 | 4 | 5 | 1 | 3 | 24 |
| アグレア | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ナインブロックス | 2 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 11 |
| 合計 | 41 | 146 | 52 | 60 | 19 | 44 | 362 |

※ZOZOTOWER 3店舗(ローリーズファーム、ジーナシス、ハレ)は、東京での出店にカウントしております。

株式の状況 | Stock Information

(2007年2月28日現在)

■ 株式の状況

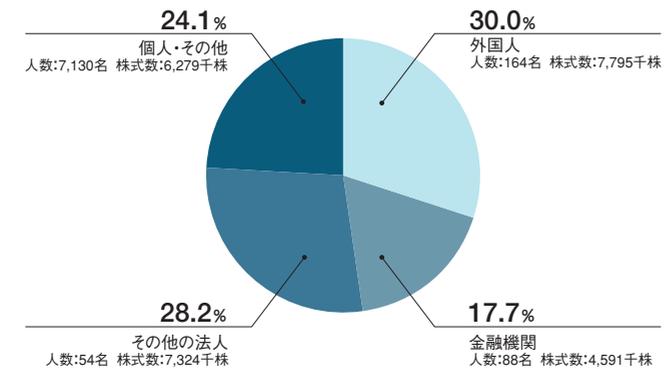
| | |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 50,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 25,990,720株 |
| 株主数 | 7,436名 |

大株主(上位9名)

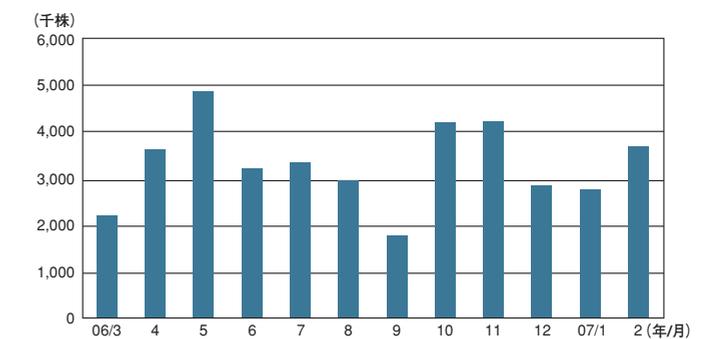
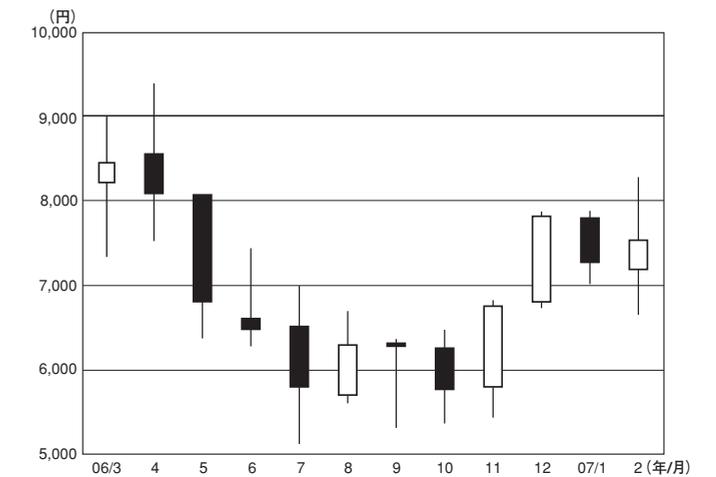
| 株主名 | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
|-----------------------------------|---------|---------|
| 株式会社テツカンパニー | 2,174 | 8.6 |
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口) | 1,871 | 7.4 |
| 株式会社フクゾウ | 1,510 | 6.0 |
| 株式会社武平 | 1,500 | 6.0 |
| 株式会社月岡 | 1,500 | 6.0 |
| 福田 三千男 | 1,382 | 5.5 |
| 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口) | 1,063 | 4.2 |
| ザバンクオブニューヨーク トリティージャスディックアカウント | 768 | 3.1 |
| ゴールドマンサックス インターナショナル | 502 | 2.0 |

※出資比率は自己株式(800,287株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式数分布状況



■ 株価・売買高の推移



■ 株式分割の推移

年月は割当日ベース

| | |
|---------|-------|
| 2002年4月 | 1:2 |
| 2003年4月 | 1:1.5 |
| 2004年4月 | 1:1.2 |
| 2004年8月 | 1:1.5 |